

## 激戦を勝ち抜いたCMSC勢、オールスターに集結!



### JMSダートツアーシリーズ最終戦 オールスターダートトライアル'88

11月19日～20日 奈良県 名阪スポーツランド

ハイパワー&ハイポテンシャルを武器に、今シーズンのダートトライアル界に一大旋風を巻き起こしたギャランVR-4。全国各地で行なわれた競技会で、数多くの勝利を勝ち取ったギャラン。その中にCMSCクラブ員の名を見かけることの多かった1988年。そのシーズンを締めくくる恒例のオールスターダートトライアルが、11月19～20日、奈良県の名阪スポーツランドにて開催された。

このオールスター戦は、全国8地区のシリーズ戦を闘い抜いた上位ドライバーと、各地を転戦して行なわれたツアーシリーズの上位陣のみが参加を許される大会。

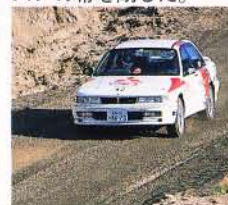
今回のオ10回大会には、CMSCより、A地区チャンピオン、CMSC帯広の青沼達也選手、B地区チャンピオン、CMSC福島の鈴木功敏選手、C地区チャンピオン、CMSC山形の砂塚明男選手の3選手に加え、ツアーシリーズでの大活躍が目立ったCMSC群馬の荒井信介選手の4名がAIIクラスの出場権を得、晴れの舞台に立った。

全国の強豪が集まるオールスター戦の AII クラス

は今シーズンの傾向を反映してか、その参加車両の多くがギャランVR-4。ギャラン同志の激しいバトルを勝ち抜いたのは、D地区の榎田正文選手。今回ベストテンは、ほぼギャランが独占する形となり、CMSC勢では福島の鈴木選手が10位に入る健闘を見せた。

また、このオールスター戦は、全7戦で行なわれるツアーシリーズの最終戦も兼ねており、CMSC群馬の荒井選手が、AIIクラス、シリーズ5位に、またCM

SC帯広の青沼選手が8位に、それぞれ決定し、シーズンの幕を閉じた。



↑好走を見せた鈴木ギャラン



↑帯広の青沼選手



↑ツアーシリーズで大活躍の荒井選手



↑B地区チャンプ・鈴木功敏選手



←砂塚選手はC地区代表



←荒井選手はシリーズ5位



# シーズン最後のトライアルに44台が集結し盛大に開催

## CMSC帯広 コルトダートトライアル 10月31日

毎年、北海道の年度を締めくくるコルトダートトライアルですが、今回は、前日にうっすらと雪が降り、コース上は真白という状態。オフィシャル全員でコースとパドックの整備を必死で行い、何とか競技を開始しましたが、1トライ目の途中あたりから、コースは雨にたたられたこともあってドロ沼と化し、全ては1トライ目で勝負が決ってしまいました。

三菱車5台がエントリーした4WDクラスでは、1トライ目に借り物のランサー4WDで参加した十川選手が、ぶっち切りのトップ。このタイムには、新車のギャランを持ち込んだ井馬選手も歯が立たずに、クラス4位。札幌から遠征の佐々木ギャランも8位と振わず、さすがのギャランも弟分のランサーに完敗。結局十川ランサーのタイムは改造車クラスにも破られずの総合ベストラップ賞までモノにする活躍でトライアルは終了しました。

(レポートCMSC帯広 青沼達也)



↑ギャランを喰った十川ランサー



↑見事総合優勝を決めた十川選手



↑三菱賞2位。井馬ギャラン



↑地元CMSC帯広の伊吹選手も力走

# 四国でもギャラン旋風が吹き荒れる

## CMSC香川 '88BDSCダートトライアル 9月25日 香川スポーツランド

四国ダートトライアル第9戦、「'88BDSCダートトライアル」が、ボギーダートスポーツクラブとCMSC香川の共催という形で行なわれました。

当日は、雨にたたられたものの77台が参加。ゲストに山内伸弥選手を迎えての大会となりました。ここ四国でも、ギャランVR-4の旋風が吹き荒れ、今回もAIIクラスに5台のエントリーがあった他、ミラージュ4WDも初参加。結果は、やはりギャランが強くAIIクラスの田中和雄選手が悪コンディションの中、見事に優勝を決めました。

なお、CMSC香川では、来年もダートトライアル2戦に加え、久々のラリーを1戦開催する予定でありますので今後とも、ご協力ご支援をよろしくお願います。

(レポートCMSC香川 平尾高王)



↑AIIクラス優勝の田中和男選手



↑四国でも人気のギャラン



↑前走を務める山内伸弥選手

# 千田俊二選手(CMSC札幌)4年連続のチャンピオンを逃す

## JMRC北海道ラリーチャンピオンシリーズ第7戦 10月16日 RTCラリー-in SHINTOKU

ひと足早く、シーズンのファイナルを迎える北海道ラリーシリーズの最終戦は、秋晴れの中ディラリーで開催された。マシンは60台のフルグリッド、内Cクラスには22台が参加した。北海道のラリーシリーズでは、CMSC札幌の千田選手が3年連続のCクラスチャンピオンとなっており、今シーズンも逆転優

勝のチャンスは濃厚。SS-1、SS-2とトップタイムをマークしたのは千田選手。ところが続くSS-3で力が入りすぎたのコースオフをしてしまい2位との差を詰められてしまう。そして、第4SSでレストコントロールタイムの申告ミスをしてしまい逆転優勝の望みは断たれてしまった。結局優勝はポイントリーダーの鈴木昭江選手、CMSC勢では、札幌の横山宏選手が4年ぶりのラリーながら5位に入賞する活躍を見せた。



↑惜しくもV4を逃した千田選手